

# 秋田県歯科技工士会中央地区 生涯研修(自由)案内

時下皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

さて、中央地区主催生涯研修を下記要領で開催いたします。奮ってご参加下さい。

## 記

1. 日 時 平成28年6月26日(日) 午前10時～午後4時
2. 場 所 ユースパル
3. 講 師 大野 健夫 先生《白山デンタル・ラボラトリー 総義歯研究所》
4. 内 容 同封の抄録をご覧ください
5. 受講料 会員：無料 会員外：5,000円
6. 定 員 30名
7. 申込み 6月20日(月)までに 支部長 佐々木秀行へ  
問合せ TEL 090-3361-4525

※生涯研修(自由)を申請中です

## 秋田技工士会勉強会

平成 28 年 6 月 〇〇 日  
白山デンタル・ラボラトリー  
総義歯研究所 大野健夫

印象採得され石膏が注がれた模型を手にして、総義歯を製作する時に、歯科技工士は何を根拠に総義歯を製作するのかと訊かれたら、多くの歯科技工士は返事に困るのではないかな？

①咬合床製作、②咬合器装着、③人工歯排列、④歯肉形成、その時々はその根拠を問われたら私が総義歯製作をする時の最初の根拠は残された顎堤に求めることである。

そこには有歯顎時の痕跡が存在すると、私達、多くの歯科技工士が学んだ教科書に 50 年前から現在に至るまで、そのように書いてある。教科書の持つ使命の1つに継続性がある。

その残された顎堤弓には、過去の有歯顎時に歯列弓が存在し対向関係があることで、全ての機能が問題なく営まれていた。

この教科書は咬合採得について、次の記述がある。

咬合採得とは歯の欠損のある顎について中心咬合位を設定し記録すること、

具体的には、欠損した歯および吸収された歯槽部に、これに代わるように咬合床を作りとある。

この一文こそが、過去に個人が固有に持っていた歯列弓と同じ形状の咬合床を現在残されてある顎堤弓上に求めなさいと示唆する言葉であると確信する。

この言葉を参考に『ものの本質を知ろうと思ったなら、その由来を尋ねれば良い』形態学の創始者で詩人ゲーテのこの言葉を借りるなら

『総義歯の形を知ろうと思ったら、その由来である歯列弓を尋ねればよい』 それでは尋ねる方法を見つけることが最善策であると考えられる。

個人が固有に持つ上下顎歯列弓の大きさや形と対向関係は、その人の遺伝的影響や成長発育の環境の中で後天的に獲得したものであり、この獲得した咬合関係は多くの人にとって、矯正学で言うところの正常咬合であると言える。

天然歯(歯列弓)は頬・舌・口輪筋などの筋圧のバランスに導かれ、その位置に萌出する。

その影響は歯を支える顎堤にも影響し、結果として歯列弓形態にも及ぶものと考えられる。

成長発育など口腔環境の形成時に強く影響を受け、その後長い間口腔環境はその状況下であり、咀嚼・発音・食物摂取・嚥下などの口腔機能は、この状況下で何の問題もなくその機能を十分に果たしていた。

『頬・舌・口輪筋などの筋圧の影響は歯の喪失後も口腔内に存在し、総義歯はそのような環境の下に置かれ、咀嚼・発音・食物摂取・嚥下などの機能を有歯顎時と同様に求められることから、有歯顎時の歯列弓を再現することが機能する総義歯の形として求められる』。

有歯顎時の形は顎堤も含めて、欠損した歯や吸収された歯槽部を補うように総義歯歯列弓形態の形を作ることであり、その姿を変えることは機能の何かを失うことになるが、不正咬合の一部を除き、異常な位置にある歯まで再現する必要はない。仮想・典型的な正常咬合に再現すること

これらが、私が総義歯製作をする時の『根拠と目指す総義歯の形』である。

## 咬合床を自信を持って作れますか

平成 28 年 5 月 2 日

白山デンタル・ラボラトリー

総義歯研究所 大野健夫

総義歯製作工程で始めに行われるのが、

- ① 既製トレーを用いた印象採得であり、この石膏が注がれただけの模型を基に研究用模型を製作する。この研究用模型で個人トレー製作を行い
- ② 個人トレーを用いて精密印象採得が行われ、この時も石膏が注がれただけの模型を基に歯科技工士は総義歯製作のための作業用模型を製作する。
- ③ この作業用模型を用いて次のステップとして製作するのが咬合床製作であるが、この時、歯科医師からの口腔内の情報は無いので、当然のように、平均的數字を用いた咬合床になる。しかし、この平均値の咬合床は、総義歯製作のための教科書では感覚的に製作するレベルの記述しかなく、同じ歯科技工士が何度製作しても同じ形・大きさの咬合床にならない。
- ④ 歯科技工士は咬合床を製作する時に咬合床が果たす役割を理解しないまま製作している。が①～④で作られるものは今後の総義歯製作においてその精度を左右する製作物である。
- ⑤ 『印象採得と咬合採得という作業は総義歯製作の根幹を成す重要な作業である』
- ⑥ この作業を人の手に委ねることから、総義歯製作上重大な問題点が発生する。
- ⑦ 臨床では咬合床製作の段階で口腔内の情報源は唯一この作業用模型のみである。  
そこで優秀な歯科技工士はこの作業用模型からどれだけの口腔内の正確な情報を得ることが出来るか考えた時に、作業模型を先ず規格模型にする。その規格模型に等脚台形を記入し、上下顎模型を平行模型と同じ状態にし、後面を基底面にして、上下顎模型を向い合せに立てることで上下顎模型の大きさの比率と中心位咬合位を知ることができ、骨格性のⅠ・Ⅱ・Ⅲ級の分類を推測することが出来るようになる。
- ⑧ ここから、上顎前歯部のリップサポートの数値を変える根拠が生まれ、より精度の高い咬合床の基準を見つけることになる。
- ⑨ 解剖学的ラウンドマークを作業用模型上に記入する。  
上顎模型から ①正中線の位置、②切歯乳頭の位置、③ハミューラーノッチの位置、④口蓋小窩の位置、⑤顎堤の吸収程度の確認、⑥左右臼歯部の吸収程度の違い、⑦筋形成における顎堤の左右差の確認方法、⑧上唇小帯の形と位置、⑨頬小帯の位置と大きさと方向、⑩残根の有無、根面板も同じ、この有無による顎堤の左右差の確認方法、  
下顎模型では、①左右レトロモラーパッドの形と大きさを記入、②舌小帯の位置と形、③下唇小帯の位置の確認、④前歯部顎堤の左右差と吸収程度の差、⑤臼歯部顎堤の吸収程度の現象をあらかじめ顎舌骨筋線の位置との比較で見ると、⑥筋形成から見える辺縁形態、⑦もし筋形成が無く、辺縁形態を探る場合、左右差をできるだけ無い状態にする、
- ⑩ ⑨を参考に下顎模型の計測をして、そこで得られた数値下顎臼歯部の計測である。この計測数値を基に、上顎模型にも計測値の記入を行う。